

謹賀新年

年頭にあたって

富良野市議会議長

北 猛 俊



新年を迎えられ、市民の皆様には、この瞬間にしか味わえない感動と希望を胸に、初春をお過ごしのことと謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、2020年オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定し、2013年の漢字が「輪」と書されました。

迎える東京五輪が、東北の被災地をはじめ全国に自信と誇りを取り戻しての開催を大きく期待するところであります。

また、人とのつながりを表す「輪」については、全国で多発した自然災害や、甚大な台風被害を受けたフィリピン

への支援と、国内だけでなく国境を越えた支援・助け合いの輪が広がっていることを感じました。

本市においても、地域医療を守る観点から、行政と医師会及び市民の三者が連携した医師の安定的確保に向けた対策が動き始めています。

「輪」という字には、多くの人を手をつなぎ、とどまることなく円滑に回転していく様も込められているとのことであります。

富良野市が一つの輪となつて、とどまることなく回転・向上していくことを願うところであり、市議会といたしましても、市民がより一層快適に「住み、働き、憩う」ことの出来るまちづくりにより、全力で取り組んでまいります。

市民の皆様におかれましては、本年も変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年が明るく希望の持てる一年となりますことと、皆様のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。

全議員の賛同を得て

「富良野市

まずはふらのワインで乾杯条例」が可決！



富良野市議会は、第4回定例会において議員提案により本条例が提出され、最終日の12月13日に可決しました。

「条例の提案説明内容」

ふらのワインは、農業経営の安定及び生産性の低い石礫傾斜地の有効利用のため、富良野のオリジナルワインを目指し、ブドウの栽培からの研究スタートでした。

現在、ワインの原料用ブドウは、栽培農家27戸、30ha、ワイン工場直営17haの圃場で栽培され、ワインは17種類、年間30万本、ぶどう果汁は2種類、年間10万本生産されています。

しかし近年、栽培農家の高齢化による減少や面積の減少、老木による収量の減少など、今後のワイン生産や販売環境は厳しさを増すことが懸念される状況です。

40年の歴史を刻んだ「へそとスキーとワインのまち」を標榜する富良野市のワイン事業は、

農産加工を通じ地域農業振興に大きく貢献し、そして、「ふらのブランド」の先駆者として今日に至っており、また自治体ワインとして事業の持続的経営が必要不可欠です。このようなことから、富良野市民がワインに親しむ機会を増やし、もっと身近に気軽にワインを味わい楽しむことのできるワイン文化の醸成をめざして、ふらのワイン、ふらのぶどう果汁による乾杯の習慣を広めることにより、ワイン等の普及の促進を図ることを目的とするものですが、併せてブドウをはじめとした米、麦等の農産物の生産による農業振興と富良野市に関わる特産品の生産と消費拡大による地域の活性化にも期待し、題名に「まずは」を加えているものです。

以下、その内容について条を追って説明申し上げます。

第1条は、条例の目的に関する規定です。次に、第2条は市の役割、第3条は事業者の役割、第4条は市民の協力について規定するものです。

なお、条例の施行日は公布の日からしようとするものです。